

コラボレーション・・・プレーヤ同士の共演 聴き比べ

モダン・ジャズおよびスムース・ジャズの著名プレーヤが、協調のもとにアルバムを合作したコラボレーション (collaboration) 例を集めて演奏年順に並べました。

同じ楽器同士では対照的な表現になったり、判らなくなったり。異なる楽器同士では合奏したり、ソロに入ったり・・・様々に展開します。(凡例↓)

#	プレーヤ / プレーヤ 曲番 “曲タイトル” (演奏時間)	<アルバム タイトル> 作曲
メンバー	発行年	CD 情報



1	Bill Evans/ Jim Hall <Undercurrent> #1 “My Funny Valentine” (5:20)	Rodgers-Hart
Bill Evans (p), Jim Hall (g)		
1962 Bluenote 7243 5 38228 2 8		

● My Funny Valentin (邦題) 一例 <<いとしのヴァレンタイン>> 意識??
作曲者= Richard Rodgers 1937年、ミュージカル「Babes In Arms」で発表されたショーの曲。Vocal/器楽ともにカヴァー例が多く、Frank Sinatra, Ella Fitzgerald および Bill Evans 等 600 以上の演奏、1300 アルバムに採録され standard 曲として定着。



2	Bob James/ Earl Klugh <One on One> #1 “Kari” (6:27)	Earl Klugh
Bob James (p), Earl Klugh (g), Ron Carter (b), Harvey Mason (ds), etc.		
1979 35DP-10		

● Kari (邦題なし) 報告者の案では <<鐘>>
Bob James とのコラボレーションに際し、Earl Klugh が作曲と想定。ライナーノートには曲の説明が見つからず、波を表現する音形が現れるためか「カリブ海某島の教会の鐘」との印象例を発見した。しかし同アルバム中に、「Mallorca」との曲があり、マヨルカ島・・・むしろ地中海の島を連想。近くの教会の鐘の音に、離れた教会の鐘が呼応する様は、まさに Fuga 様式。



3	George Benson/ Earl Klugh <Collaboration>	
#8	"Love theme from Romeo & Juliet" (5:47)	Nino Rota
George Benson (g), Earl Klugh (g), Marcus Miller (b), Harvey Mason (ds), etc.		1987 32DX-752

● Love theme from Romeo & Juliet (邦題)「愛のテーマ」(ロミオとジュリエット)
1968年の映画「ロミオとジュリエット」のために作曲された楽曲。カバーした Henry Mancini による編曲の器楽曲が人気曲となり、Billboard Hot 100 のシングルチャート1位を獲得、その後多数がカバーした。



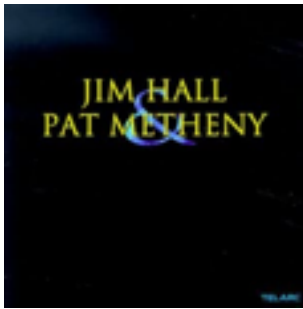
4	David Benoit/ Russ Freeman <The Benoit/Freeman project>	
#1	"Reunion" (5:06)	Russ Freeman
David Benoit (p), Russ Freeman (g), Nathan East (b), Tony Morales (ds), etc.		1993 MVCR-175

● Reunion (邦題なし) ……辞書どおりに直訳して << 再会 >>
David Benoit はクラシック曲を彷彿とさせながら、バリツと高音を聴かせたピアノの名手、Russ Freeman は言わずと知れた、グループ「The Rippingtons」のリーダーである。この二人はマイナーレーベルからデビューし、全米 jazz chart の No.1 の頃に、この企画が発足。対等な立場で作曲・アレンジし、卒なくアルバムをまとめている。



5	Larry Carlton/ Lee Ritenour <Larry And Lee>	
#1	"Crosstown Kids" (5:02)	Lee Ritenour
Larry Carlton (kb/g), Lee Ritenour (g), Melvin Davis (b), Harvey Mason (ds), etc.		1995 MVCR-212

● Crosstown Kids (邦題なし) ……自分たちをそのように表現か。
いずれも Fourplay の guitar を担当、Fusion/smooth jazz 界の代表的 guitarist、いずれも GRP に属しており、コラボの企画を発想しものと思われる。色々な経験を経たそれぞれの持ち味の対比と合流を楽しむ稀な機会として聴きたいアルバムである。



6	Jim Hall/ Pat Metheny <Jim Hall & Pat Metheny>
#2 “All The Things You Are” (6:58)	Jerome Kern
Jim Hall (g), Pat Metheny (g)	1999 TL CD—83442

● All The Things You Are (邦題)「君は我がすべて」
 ギターのベテランどうしがつむぐ、広く親しまれた曲の個性的な表現の交歓・・・
 ミュージカル“Very Warm for May”(1939年)に書かれた曲。作曲は Jerome Kern
 作詞は Oscar Hammerstein II。ポピュラーな録音では Tommy Dorsey, Artie Shaw
 等があり、著名な modern jazz player はじめ vocalist 等多くのカバー例がある。



7	Pat Metheny/ Brad Mehldau <Metheny Mehldau>
#1 “Unrequited” (4:59)	Brad Mehldau
Pat Metheny (g), Brad Mehldau (p), Jeff Ballard (ds)	2006 NS 79964-2

● Unrequited (邦題)「報われぬ思い」
 Pat Metheny の曲にショックを受けた Brad Mehldau、そしてあるアルバムのサイドマン
 であった Mehldau に注目した Metheny・・・コラボに至ったのであった。
 「報われぬ思い」は Mehldau のリーダーアルバム“Songs:The Art of the Trio
 Volume Three”からの曲。

以上